

地域の伝統を

楽しみながら受け継ぎ、伝えていこう

9月10日と11日に、3年ぶりに十和田市秋まつりが開催されました。会場ではさまざまなイベントが行われ、訪れた人、参加した団体それぞれが、久しぶりの秋まつりを楽しみました。

今号では、十和田市秋まつりに参加した「上金崎町内会」と「並木祭典会連合会」の2団体にお話を伺いました。

コロナ禍の中、秋まつりへ参加するという決断は簡単ではなかったと思います。参加の決め手となったのは、どんなところですか？

上金崎町内会
コロナ禍になってから、子どもたちの行動にも制限がかかるようになり、ストレスが溜まっているなど感じていました。また、大人たちからも「今年こそは秋まつりに参加したい」という声がありました。子どもたちにお囃子を通して秋まつりを楽しんでもらいたいという思いと、秋まつりを次につないでいきたいという思いから参加を決めました。

並木祭典会連合会
「秋まつりがないと寂しい」という地域の声や、今年参加しないと、山車の製作もお囃子も存続できないかもしれないという不安があり、地域で受け継いできた伝統をつなぐことを考えて参加を決めました。また、今年は参加を取りやめた団体に所属している子どもたちも一緒に演奏しました。地域全体で十和田の秋まつりを一緒につないでいきたいです。



練習の様子 (上金崎町内会)
■ 鉦を叩いて、伸びるようないい音が出ると気持ちがいい！場所によって音がこもってしまうのが難しい。(鉦・高校生・上金崎)

■ お囃子で忘れていた部分もあったけど楽しかった。来年もあつたら参加したい。(小太鼓・小学生・並木)

練習日と秋まつり当日に聞きました
小学生・中学生・高校生が思う「秋まつり」

■ 小さい時から小太鼓、笛、鉦をやってみたけれど、いつかは大太鼓をやりたいと憧れていた。今、大太鼓ができて、やっぱり一番楽しい！(大太鼓・中学生・上金崎)

■ コロナで修学旅行も体育祭もなくなってしまった。3年分のストレスを大太鼓にぶつけて、秋まつりを楽しみたい。(大太鼓・高校生・並木)

ゆっパルの由来

この地方の方言で「結ぶ」という意味の「ゆっばる」と、英語で「仲間・友だち」という意味の「パル」からできています。

十和田市男女共同参画市民情報誌「ゆっパル」編集委員によるコーナーです。

『一人ひとりの思いが結びついて仲間をつくる』という願いが込められています。



当日の様子 (並木祭典会連合会)



■ 秋まつりの楽しいところは「みんなでワイワイできる」「いろんな人と話ができる」「楽器が演奏できる」こと！(小太鼓、笛、鉦・小学生、中学生・並木)

大人が思う「秋まつり」

■ 今後、元の団体でも演奏できるように、無理にここのお囃子に直さなくてもいいと指導している。今まで演奏してきた団体のお囃子も大切にしてほしい。(並木)

■ 参加者にはとにかく楽しんでほしい。今年楽しんでもらい、次の秋まつりには友達を誘ってまた来てくれたらうれしい。(上金崎)

■ 口を出しすぎないように気を付けている。実演は若い指導者に任せ、自分は道具のメンテナンスや、子どもたちの細かいフォローに回るようにしている。(上金崎)

ホットな一句



インタビューを終えて

秋まつりは子どもと大人、両方が参加してこそ実現できるものだと改めて感じました。お囃子の練習や山車の製作を通して世代を超えた交流が生まれます。秋まつりへの参加は、「地域のことを知る・つながる・考える」といった経験ができる貴重な場の一つなのかもしれません。

身近なきょうどうさんかく あなたに「気づいて」ほしい！

「名前はないけれど、毎日やっている」「自分以外の家族が気づいてくれない」そんな名もない家事たちに名前を付けた、「あなたに気づいてほしい家事」を県ホームページで公開しています。



▲ホームページ

この機会に、毎日の家事について振り返ってみたり、家族の中での役割分担について考えてみませんか。

編集委員も考えてみました！

● 立つ鳥跡を濁さない家事
洗面台、トイレ、お風呂などを使った後に、水はね、ひげ、髪の毛などをさっと一拭きして、次に使う人が気持ちよく使えるように整えます。

● 期限切れ食材バキューム
誰も食わずに賞味期限切れを迎えた食材たちを私が泣く泣く食べて片づけています。期限の早い食材から食べてくれるとうれしい！

● まごころ返礼係
いただきものをした時に、お礼の電話やメールをして、喜んでもらえそうなお返しを考えて、準備します。

● なくなる前に先回り
シャンプーや洗剤などの生活消耗品がなくなったとき「ストックがない！」とならないように先回りして補充分を買っておきます。



▲リーフレット

◆◆ 編集後記

- 練習会場を通りがかった人たちもお囃子にあわせて体を動かしており、本番までの時間も楽しんでいることが印象的でした。(O)
● 全員が楽しむ気持ちを一番に優先しているのが印象的でした。その空気感から生まれた子どもたちの自主性に、十和田の明るい未来を見た気がします。(O)
● 3年ぶりの秋まつり出演者はストレス発散、観客は疲労を癒せたことと思います。大空に響く、伝わる未来の「祭り」はすてきですね。(K)
● 「お囃子を聞いて、ちょっと辛いことがあっても、頑張る心の支えになれば」という大人からの言葉。私も同じ思いをしています。(S)
● 秋まつりを一緒に盛り上げたい、楽しみたいという気持ちを持っている人であれば誰でも参加でき、地域の子どもと大人を結ぶことのできる、すてきな行事だと思いました。(M)

編集 十和田市男女共同参画市民情報誌ゆっパル編集委員

岡崎 大輔、岡田 加寿江、木村 奈生美、新藤 幸子、村井 純麗

発行 総務課 広報男女参画係 ☎51-6702